

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう！主に癒され、整えられて」

＜先週の説教から＞

『ヘブライ53-主に喜ばれるささげものとは？』

武田真治牧師

ミカ書 6：6-8 ヘブライ手紙 13：13-16

ヘブライ書を読み進め、いよいよ最後の13章に入ります。この章は1～6節が“信仰者個人の生き方”（＝兄弟愛を持って生きよ、金銭に執着するな等）、7～19節が“教会のあるべき姿”が教えられています。今日の箇所の15節と16節も、教会に関する教えだと言います。

まず15節は「だから、イエス通して賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえる唇の実を、絶えず神に献げましょう」です。これより前の節で「宿営の外に出て（イエス様の）みもとに赴こう」と奨められていました。日常の生活から“出て”イエス様の“み前に行く”ことこそ礼拝だと。そしてそれはいつか私たちがこの世界を“出て”天のみ国におられるイエス様の“み前に行く”ことも望みながら礼拝することにも通じます。「だからイエス通して賛美のいけにえ」を“献げること”が礼拝の中心だと言われているのです。なるほどですね。またここで「御名をたたえる唇の実」とも言われています。これは単に讃美歌のことだけでなく、私たちが口にする「祈り」も、告白する「信仰告白」も、更には「説教」も唇の実と言い得るのです。それらすべてが「御名をたたえる」ものであってほしいと！それでこそ神様への「いけにえ＝献げもの」となるのではないのでしょうか？そうありがたいです。

問題は次の16節です。新共同訳は「善い行いと施しとを忘れないでください」とありますが、ここの「施し」と訳されている言葉は（コイノニア）です。この言葉は新約聖書では「（信徒同志の）交わり」とか「（福音に）あずかる」と訳される“教会”に連なることに用いられている言葉です。最初に申しましたように、7～19節は“教会のあるべき姿”が語られているのですから、この16節もやはり教会内での「善き行いと信徒同志の交わり（＝分かち合い）を忘れないでください」とヘブライ書の著者は伝えたいのだと思います。そしてそれこそが次に続く「このようないけにえこそ、神は

喜びになるのです」に続き、逆に教会内で自分勝手なわがままな行動をすることに対して、次の17節で「指導者たちの言うことを聞き入れ」へと続いて行くのでしょうか。少なくとも、ここで急に一般論としての「善行と施しを忘れるな」と教えられると採るのは、不自然であるように思いますが、いかがでしょうか？

よく“縦の線と横の線が交わって十字架となる”と言われるように、天の神様に心を向けて「唇の実」を献げて行くこと（＝縦の線）と同時に、教会員同志との「交わり」、更には「善き行い＝伝道」へと横に広がって行く生き方（＝横の線）の両方が含まれて「（神様への）いけにえ」であり、それらを「神はお喜びになる」と言われているのですね！

【今週の集会】

*聖書研究・祈禱会 I. 7月26日（水）20：00
II. 7月27日（木）10：30

聖書：ハイデルベルク信仰問答
祈禱主題：信徒セミナーを覚えて
担当者：（水）高橋 （木）東
祈りに覚える人：佐伯さん 坂田さん

【教勢報告】

主日礼拝 男24 女53 計77
祈禱会 I. 男5 女2 計7 II. 男2 女8 計10
日曜学校 幼稚科6 小中科13 計19

【次週主日礼拝】 7月30日（日）

聖書：詩編 35：1～28
ヨハネによる福音書 15：23～25
説教：「詩編95—わたしの骨は叫ぶ！」
武田真治牧師

讃美歌：3(1)、32、363(1と2)、58(1～3)、520(1～3)、92(1)

【次週当番表】

司式：齋藤長老 奏楽：羽倉長老

礼拝：坂田長老

献金：鈴木 鈴木 受付：東 佐々木
会堂準備：阿部 伊藤 伊藤 岩井
岩井

看板：岩佐 週報：吉岡 お花：

【次週集会予定】

礼拝前：・求道者会 ・聖書輪読会
礼拝後：・信徒セミナー

2023年 7月 23日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>